

平成 19 年 11 月 5 日

各 位

株 式 会 社 焼 肉 屋 さ か い
 代 表 取 締 役 会 長 杉 本 英 雄
 (JASDAQ・コード：7622)
 問 合 せ 先 取 締 役 管 理 本 部 長 乗 松 康 弘
 T E L : 0 5 2 (9 1 0) 1 7 2 9

平成 20 年 3 月 期 中 間 及 び 通 期 の 業 績 予 想 の 修 正 に 関 す る お 知 ら せ

平成 19 年 7 月 31 日 付 の「平成 20 年 3 月 期 中 間 及 び 通 期 の 業 績 予 想 の 修 正 に 関 す る お 知 ら せ」に て 発 表 いた した ま し た 平 成 20 年 3 月 期 (平 成 19 年 4 月 1 日 ~ 平 成 20 年 3 月 31 日) の 中 間 及 び 通 期 の 業 績 予 想 を、下 記 の と お り 修 正 いた した ま す。

記

1. 平成 20 年 3 月 期 中 間 業 績 予 想 数 値 の 修 正 (平 成 19 年 4 月 1 日 ~ 平 成 19 年 9 月 30 日)

(単 位 : 百 万 円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	中 間 純 利 益
前 回 発 表 予 想 (A)	5,993	207	135	76
今 回 修 正 予 想 (B)	5,958	423	357	332
増 減 額 (B-A)	▲35	216	222	256
増 減 率	▲0.5%	104.3%	164.4%	336.8%
(ご参考) 前 期 実 績 (平 成 19 年 3 月 中 間 期)	6,903	10	▲68	▲266

2. 平成 20 年 3 月 期 通 期 業 績 予 想 数 値 の 修 正 (平 成 19 年 4 月 1 日 ~ 平 成 20 年 3 月 31 日)

(単 位 : 百 万 円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前 回 発 表 予 想 (A)	10,576	490	409	161
今 回 修 正 予 想 (B)	11,587	602	501	406
増 減 額 (B-A)	1,008	112	92	245
増 減 率	9.6%	22.9%	22.5%	152.1%
(ご参考) 前 期 実 績 (平 成 19 年 3 月 期)	12,317	▲131	▲248	▲777

3. 修 正 の 理 由

当 期 (平 成 20 年 3 月 期) に お け る 当 社 は、平 成 19 年 5 月 28 日 に 完 了 いた した ま し た 当 社 株 式 の 公 開 買 付 け に よ り 親 会 社 と な り ま し た 株 式 会 社 ジ ー ・ コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン (名 古 屋 市) の グ ル ー プ 会 社 と し て、同 社 お よ び 同 社 グ ル ー プ に お け る 種 々 の 運 営 ノ ウ ハ ウ を、当 社 の 運 営 に 反 映 さ せ る こ と に よ り、店 舗 運 営 の 効 率 化 や 収 益 構 造 の 改 善 に 取 り 組 ん で ま い り ま し た。

中間期の見通しとしましては、売上高は若干、計画を下回りましたが、ほぼ計画通りの推移となりました。営業利益、経常利益につきましては、店舗運営におけるシフト管理において、人件費コントロールの仕組みを見直したことにより、第1四半期と第2四半期との比較において、3.8%の改善となりました。その他、各取引や契約内容を必要最小限に見直し、販売管理費の低減に努めました。これにより当初計画より早期段階の第2四半期より効果が現れ、特に8月・9月度につきましては、計画を大幅に上回る利益実績を計上することができました。これは親会社グループの運営ノウハウが当社の運営手法に予測以上に短期間で融合された結果であり、グループシナジーの現れと判断しております。これらに加え、経常利益につきましては、支払利息の低減効果が営業利益との増減額の差異となっております。中間純利益におきましては、経常利益までの増加要因に加え、前回発表時に計画しておりました一部遊休資産の除却計画において、遊休資産を再利用することとしたため、その計画を修正いたしました。

以上の結果、中間期における売上高は目標を35百万円下回る5,958百万円の見通しですが、営業利益、経常利益および中間純利益については、それぞれ、423百万円、357百万円および332百万円と、平成19年7月31日付の業績修正を大幅に上回る見通しとなりましたので、中間期の業績予想を修正いたします。

通期の方針としましては、店舗運営の効率化・収益体制が定着したことにより、既存店においては、サービスレベルの一層の向上を目指し収益体制を継続させると同時に、新規出店を加速させていく予定であります。出店計画につきましては、前回発表時には遊休資産の運用としての再オープン計画はありましたが、新たに新規物件として、当期末までに9店舗の出店を新たに計画いたしました。

また中間期での上方修正見通しから、設備投資の部分において、前期まで控えておりましたPOSレジシステム等の店舗設備の入替・修繕・改装への投資を行う予定であります。この出店および投資計画により、通期における売上高につきましては、新規出店による増加を見込んでおります。営業利益におきましては、新規出店による开店費用や投資計画による減価償却費の増加をあわせて見込んでおります。

経常利益につきましては、前回発表値の数値を再精査するとともに、新たな投融資計画を織り込むことで、支払利息を15百万円の増加に見直しました。

また、平成19年7月31日付にて発表しておりますフランチャイズ事業を含む商流等の変更につきましては、変更に伴うシステム環境の整備・改修において当初の見積りより時間と費用を要する見通しとなり、当期中の変更・完了には至らない見込みとなりました。これに伴い商流環境のシステム整備や新たなプログラム、インフラ開発に伴う費用の発生を計画に追加したことで、営業利益、経常利益としましてはこの追加計画が減少要因となりますが、新規出店および第2四半期からの店舗収益体制の継続により、前回発表値より増加する見込みであります。当期純利益につきましては、当初計画に織り込んでおりました商流環境のシステム入替等に伴う既存システムの除却損失を、上記の要因から当期は既存システムを使用することとし、システム入替により発生が予測される既存システムの除却損失計画を次期以降に計上することといたしました。これにより、当期純利益につきましては前回発表値より増加する見込みであります。

ただし、当社の施策として商流環境のシステム整備と一体でありますフランチャイズ加盟店の費用負担軽減を目的とした卸売価格の低減、配送費用の低減については当初の計画通り進捗させ、フランチャイズ加盟店の収益向上を図り、フランチャイズ加盟店と一層の良好な関係を築いてまいります。

以上の方針、計画を織り込み、平成20年3月期の通期における売上高につきましては11,587百万円、経常利益につきましては501百万円、当期純利益につきましては245百万円増加の406百万円の見通しとなりましたので、通期の業績予想を修正いたします。

以 上